

元寇所縁 げんこうゆかり のネットワーク



モンゴル襲来（蒙古襲来・元寇）は、肥後国御家人・竹崎季長が描かせた『蒙古襲来絵詞』とともに必ずといっていいほど教科書で取り上げられる日本史上著名な事件です。

蒙古襲来の折には、時の執権・北条時宗を筆頭に、九州をはじめ全国各地から集まった**鎌倉武士**たちの活躍がなければ、もしかしたら日本の歴史が変わっていたかも知れません。言い換えるなら、私たちの地域の先人たちの活躍があったからこそ、今の日本があるとも言えるのです。

2024（令和6）年、一度目の元寇である文永の役から**750年**の節目の年を迎えたことを機に、元寇に所縁のある人々が連携し、蒙古襲来から国を守った私たちの地域の先人たちの活躍を改めて掘り起こし、磨き上げ、先人たちへの感謝と共感を広げるとともに、それぞれの地域の歴史を有機的に結び付け、地域活性化につなげていくため、元寇所縁のネットワークが発足しました。

< 設立日 >

令和6年4月22日

< 団体数 >

（令和7年5月2日現在）

加 入：29自治体

情報提供：16自治体

※元寇所縁のネットワーク
マップ参照

< 主な事業 >

元寇所縁の
子どもサミット
元寇カード
資料相互貸出等

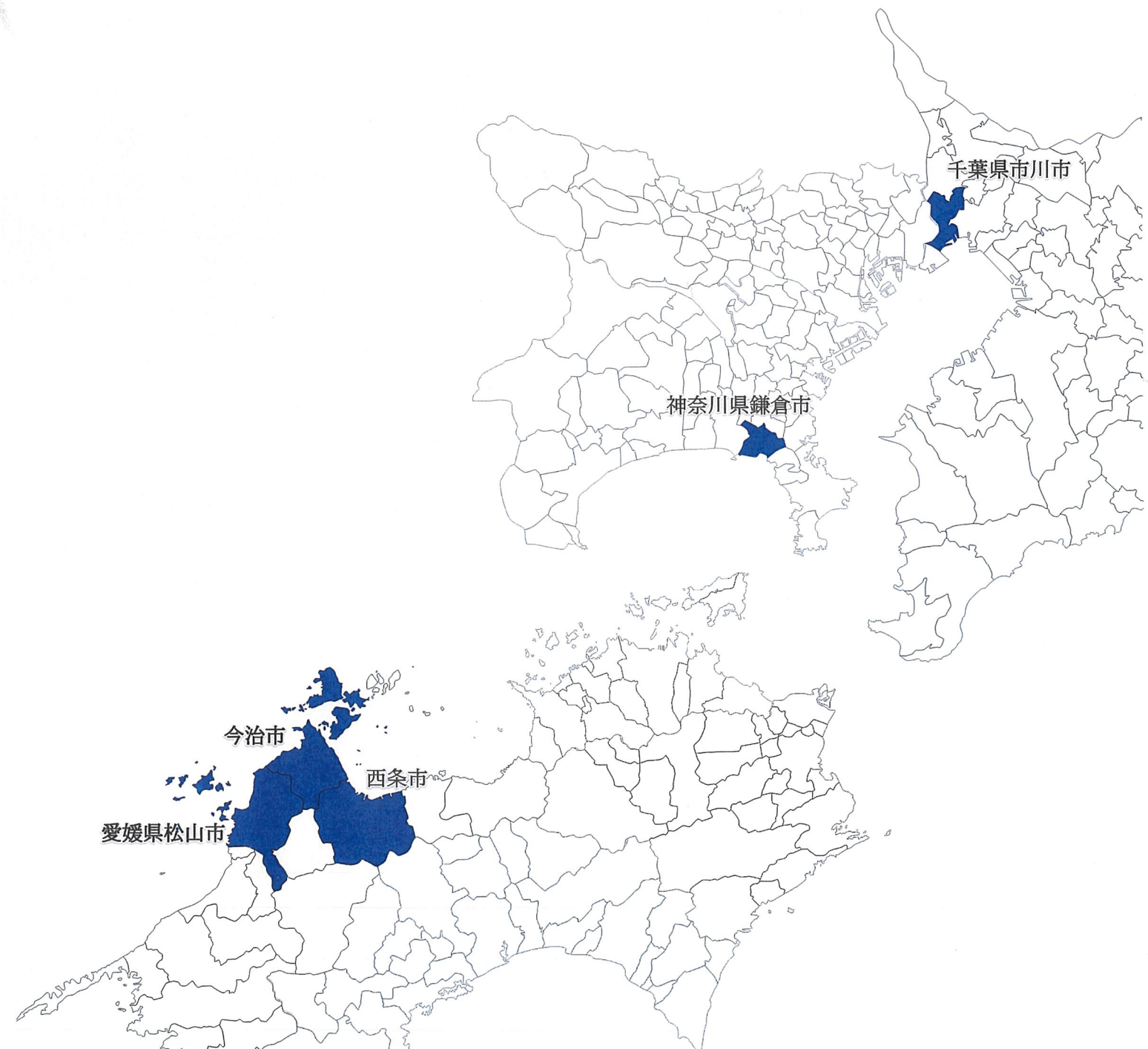
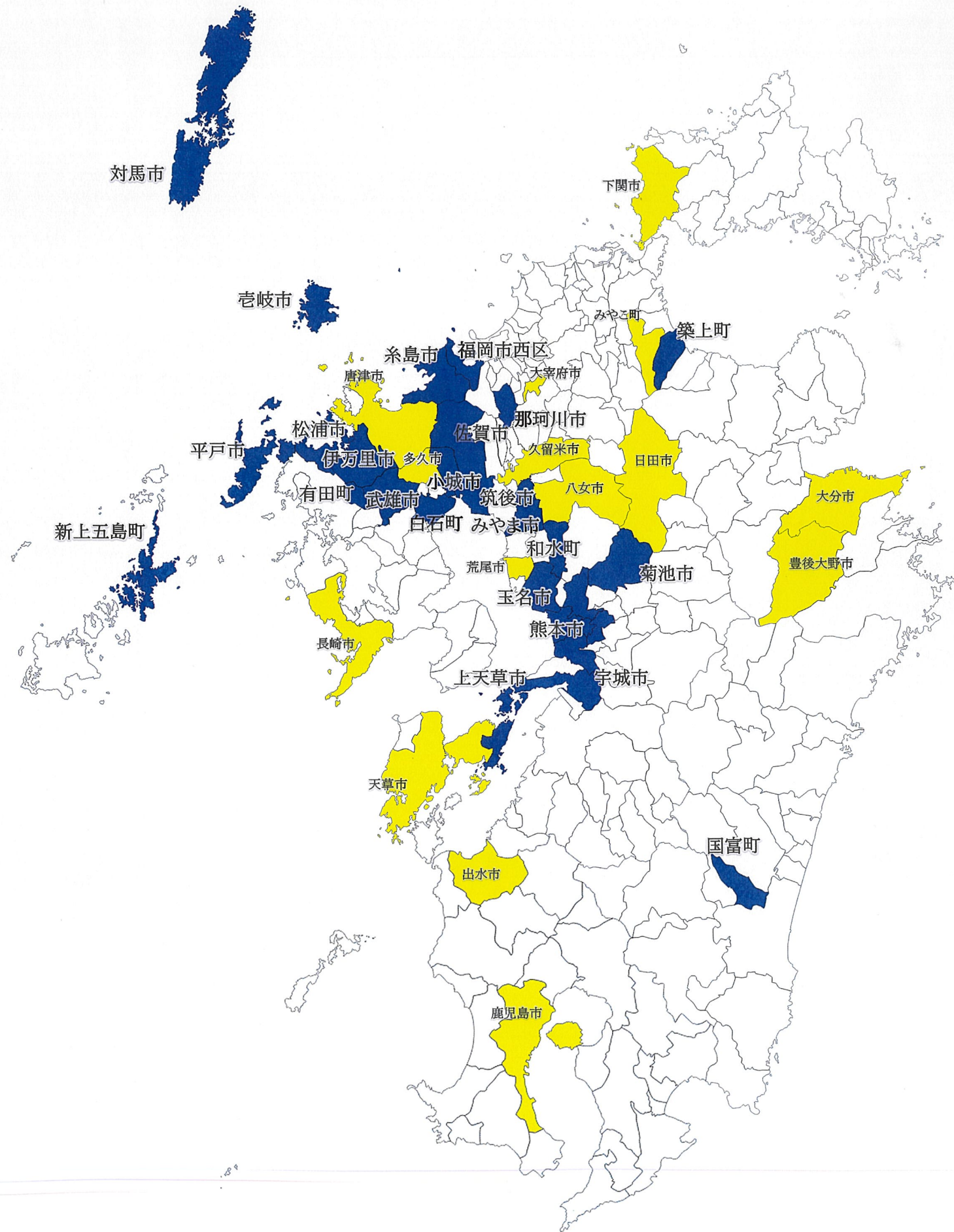
元寇所縁の ネットワーク



・・・加入自治体



・・・情報提供等での連携自治体

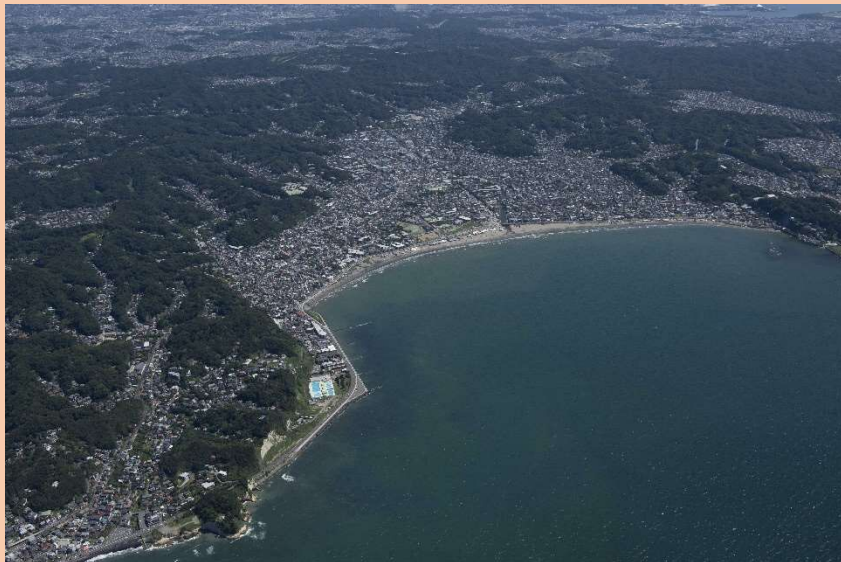




かまくら 神奈川県鎌倉市



【まちの紹介】



▲相模湾側から望む鎌倉市街地

鎌倉は、日本における古代から中世への転換期において、源頼朝をリーダーとする武家が日本で初めての本格的な武家政権を樹立した場所です。幕府を開いた頼朝は、幕府の組織を整えるとともに都市づくりを開始しました。その後、北条氏が執権の地位に就くと、鎌倉は着実な発展を遂げ、政治、軍事、

外交、文化などあらゆる面で日本の中心地となり、鎌倉幕府滅亡後も、室町時代中期まで東日本の政治、商工業の中心として栄えました。中世の社会を支えた社寺、歴史、文化は長い年月のなかで守り続けられ、今日も息づいています。

ゆかり 【所縁の鎌倉武士】

ほうじょう ときむね
北条 時宗

18歳で第8代執権となり、2度にわたる元軍の襲来(文永・弘安の役)をいずれも退けました。戦後、無学祖元を開山として、戦死者らを弔うために鎌倉に円覚寺を建立しましたが、34歳の若さで亡くなりました。

あだち やすもり
安達 泰盛

幕府の有力御家人の一人で、元軍の襲来の際は北条時宗を支えました。恩沢奉行として御家人の恩賞の審査にあたり、竹崎季長の訴えを鎌倉の邸宅で聞く場面が『蒙古襲来絵詞』に描かれています。肥後国守護として、防石塁の築造にも努めました。

あだち もりむね
安達 盛宗

父は安達泰盛。『蒙古襲来絵詞』には軍功の見知をする姿が描かれており、元軍襲来時の前線指揮官であったと考えられています。



いちかわ 千葉県市川市



【まちの紹介】



▲国指定重要文化財 ほけきょうじそしどう 法華経寺祖師堂

令和6年度に市制施行90周年を迎えた市川市は、千葉県の北西部に位置し、江戸川を隔てて東京都と隣接しています。都心から20 kmの圏内に位置し、文教・住宅都市として発展してきました。特産品としては、市内北部で作られている「市川の梨」や南部の「行徳の海苔」などがあります。打ち上げ総数約1万4千発で国内最

大級の花火大会である「市川市民納涼花火大会」も開催しています。市内には、姥山うばやま貝塚をはじめとする縄文時代の貝塚や下総しもとうさ国分寺跡など、5つの国指定の史跡があり、現在は、下総国府の全容解明に向けた調査に注目が集まっています。

ゆかり 【所縁の鎌倉武士】

ぎ え もん
太田 左衛門

肥前国に領地を有していた千葉介頼胤(ちばのすけよりたね)は家臣らと下向し、文永の役の傷がもとで1275(建治元)年、肥前小城で死去します。頼胤の家臣に太田左衛門(後に出家して乗明(じょうみょう))・富木常忍(ときじょうにん)・曾谷教信(そやきょうしん)がおり、それぞれ八幡庄若宮・中山・曾谷に住しました。富木氏らは、日蓮の有力な支援者となり、弘安の役の前後も出陣の不安や元軍の壊滅に関わる噂などを日蓮と手紙でやり取りしています。富木・太田氏は、日蓮の死後、中山法華経寺の前身となる法華寺・本妙寺を建てました。



まつやま 愛媛県松山市



【まちの紹介】



▲松山城と松山市街地

松山市は愛媛県のほぼ中央にある松山平野にあります。温暖で降雨、積雪、台風も比較的少ない、穏やかで恵まれた瀬戸内海の気候です。愛媛県の県都、また政治・経済の中心地として栄えてきた四国最大の人口を有する都市です。また、道後温泉や松山城、俳句など多くの観光・文化資源があります。

ゆかり 【所縁の鎌倉武士】

こうの みちあり
河野 通有

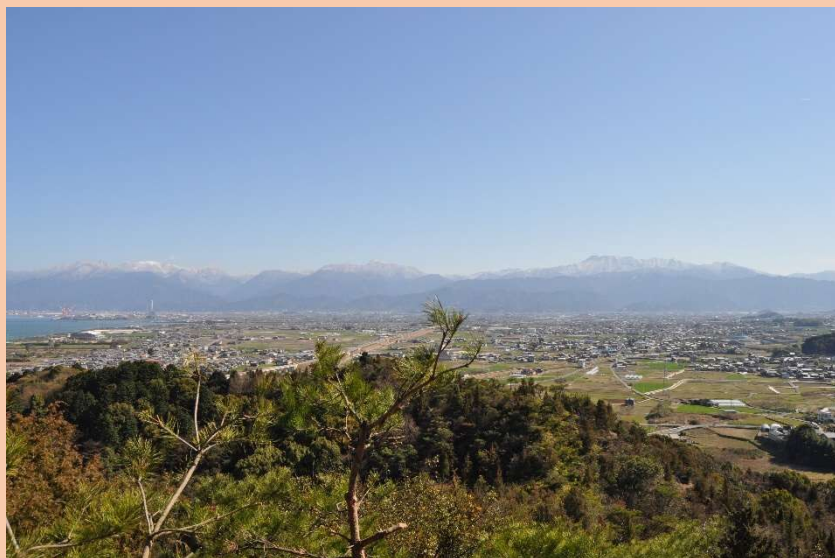
伊予国久米郡石井郷(愛媛県松山市)を拠点とした御家人、河野家の当主です。曾祖父の通信が承久の乱(1221年)で後鳥羽上皇に従ったために没落していましたが、元寇の際に伊予水軍を率いて子の通忠、叔父の通時などとともに参戦し、元寇防塁を背に元軍を迎え撃った「河野の^{こうの}後^{うしろついで}築地」や、志賀島の戦いにおける元軍の将の生け捕りなどで武名を挙げ、その勢力を回復しました。そのため、河野氏中興の祖と呼ばれています。



さいじょう 愛媛県西条市



【まちの紹介】



▲古代山城永納山城からみた石鎚連峰

愛媛県の東部に位置する西条市は、西日本最高峰の石鎚山や高縄山地、瀬戸内海(燧灘)に囲まれています。平野部の自噴井「うちぬき」の水は、名水百選に選定されるなど、西条市は水の都として知られています。また、日本一の生産量を誇るはだか麦やあたご柿等の栽培が盛んに行われる

とともに、電気機械や造船等の工場も立地し、四国屈指の工業地帯となっています。

ゆかり 【所縁の鎌倉武士】

こうの みちあり
河野 通有

伊予国御家人の河野六郎通有は、弘安の役の際に、元寇防塁の前面に陣を構えて、勇猛果敢に戦ったとされています。この陣立ては、「河野の後築地」と後世まで称えられました。

西条市北条に所在する長福寺は、通有が開基とされ、叔父の通時をはじめ弘安の役で戦死した人々の冥福を弔うために、自らの館を禅寺に改めたとされています。また当寺には、通有の供養塔とされる宝篋印塔(市指定有形文化財)が現在も残されています。





いまばり 愛媛県今治市



【まちの紹介】



▲世界初三連吊橋である来島海峡大橋

今治市は、愛媛県の北東部・瀬戸内海のほぼ中央部に位置し、高縄半島と、芸予諸島にまたがっており、中心市街地がある平野部や、緑豊かな山間部、そして、瀬戸内しまなみ海道、安芸灘とびしま海道が架かる世界有数の多島美を誇る島しょ部からなる変化に富んだ地勢となっています。瀬戸内海の風光明媚な景観と、大山祇神社

や村上海賊の海城などの歴史遺産にも恵まれ、また船舶建造隻数が国内の約20%を占める海事都市として、更にはブランド戦略により新たな飛躍を遂げたタオルの産地として、国内外に広く知られています。

ゆかり 【所縁の鎌倉武士】

こうの みちあり
河野 通有

弘安の役の際、伊予(愛媛県)の水軍を率いて元の船に夜襲をかけるなど活躍しました。蒙古襲来にあたり、通有は大山祇神社に参詣祈願。境内には、その際に兜をかけたと伝わる楠があります。また、同社の宝物館には、通有が奉納したとされる元軍武将の兜、弓があり重要文化財に指定されています。



▲大山祇神社



福岡市西区



【まちの紹介】



▲生の松原元寇防塁

福岡市西区は、生の松原から西浦に至る美しい海岸線、小呂、玄界、能古の島々、飯盛山や叶岳などの豊かな自然環境と、元寇防塁、丸隈山古墳、吉武高木遺跡などの史跡や今津人形芝居、元岡・宇田川原・今宿青木の獅子舞などの伝統芸能や歴史的資産にも恵まれている地域です。一方、市内で最も農地が多く、農漁業が盛んですが、

近年では、宅地開発が進み年々人口が増加しています。平成17年2月に地下鉄七隈線が開業し、橋本駅周辺では土地区画整理事業も行われ、大規模商業施設が進出しています。平成30年9月には、九州大学の伊都キャンパス(元岡・桑原地区)への移転が完了し、JR九大学研都市駅を中心に新しい市街地が形成され、成長を続けています。

ゆかり 【所縁の鎌倉武士】

ほうじょう さねまさ

北条 実政

北条実時の子で、建治元(1275)年に一度九州に下向。これは豊前守護であった父の代官として、幕府が企図した異国征伐計画に即した赴任であったと考えられています。弘安の役では現地の日本軍を率いて戦ったとする記録もありますが、確かではありません。その後、実政は、長門や周防の守護となり、永仁 4(1296)年に鎮西探題に就任。48歳で再度九州に下向しました。鎮西探題は、元の三度目の襲来に備え、幕府が九州を統括するために博多に設置した機関ですが、これにより博多が九州の政治の中心になるとともに、都市整備が進展しました。実政はその鎮西探題の実質的な初代と考えられています。



ちくご 福岡県筑後市



【まちの紹介】



▲筑後市の市街地

福岡県南西部に位置する筑後市は、肥沃な大地に恵まれた田園都市です。九州新幹線筑後船小屋駅や九州自動車道など、交通の要所でもあります。筑後市では温暖な気候と土地、恵まれた水を利用し、古くから農業が盛んに行われ全国でもトップクラスの農業先進地です。特産品と

しては、久留米餅、ブドウ、イチゴ、ナシ、八女茶などがあります。また、日本有数の炭酸含有量を誇る船小屋温泉郷、天然記念物船小屋ゲンジボタル発生地である矢部川、大型前方後円墳である石人山古墳などの自然資源、歴史資源を有しています。松浦市鷹島の「鷹」と、本市に所在する、ホークスベースボールパーク筑後の「鷹」との「鷹」繋がりも、元寇所縁のネットワークに加入する大きなきっかけとなりました。

ゆかり 【所縁の鎌倉武士】

ながいえ
西牟田 永家

西牟田系図に「西牟田弥次郎永家が弘安4年松浦の鷹島で戦功をあげ、肥前国神埼郡中数か所を賜った」とあり、「北肥戦誌」には「西牟田弥次郎永家、閏7月22日、松浦鷹島にて戦功」とあります。松浦市指定文化財である龍面庵には、西牟田弥次郎永家の墓と言われている墓石が存在します。



福岡県みやま市



【まちの紹介】



▲国指定重要無形民俗文化財 幸若舞

福岡県南部に位置し、南東部は熊本県南関町と和水町に接し、平成 19(2007)年に山門郡瀬高町・山川町、三池郡高田町が合併し誕生した市です。森林面積が比較的小さく耕地が大きく占め、野菜や果樹の栽培が盛んです。また、一部有明海に面していることから、海苔の養殖が行われています。みやま市では「国指定史

跡女山神籠石」や「国指定重要無形民俗文化財幸若舞」などの多くの史跡や民俗文化財があります。

ゆかり 【所縁の鎌倉武士】

たじり たねしげ
田尻 種重

たじり たねむね
田尻 種宗

たじり たねつぐ
田尻 種継

みやま市では国衆(在地領主)として、平安時代到大宰府を中心に活躍した大蔵氏一派である田尻氏の名前が確認できます。弘安の役(弘安 4 年)の際には田尻三郎種重が弟である田尻次郎種光と共に出陣し戦死。田尻三郎種重の子種長が鎌倉幕府より戦没の恩賞として薩州鹿児島の一部を賜っています。



いとしま 福岡県糸島市



【まちの紹介】



▲糸島半島の西側上空からみる糸島市内

糸島市は、福岡県西部に位置し、北側には玄界灘に面した美しい海岸線、南側には背振山系の山々が広がり、豊かな自然が特徴です。福岡市の都心部にも近く、自然の景勝地が多く点在しています。また、糸島は「食の宝庫」としても知られ、『糸島ブランド』の農産物や海産物が特に有名です。

歴史的には、中国の歴史書『魏志倭人伝』に記された「伊都国」の地として知られ、伊都国歴史博物館では、弥生時代日本最大の銅鏡が展示されています。さらに、市内には古墳や古代山城などの史跡が点在し、歴史的な魅力にあふれたまちです。

ゆかり 【所縁の鎌倉武士】

はらだ たねてる
原田 種照

はらだ たねゆき
原田 種之

元寇で奮戦した糸島の御家人としては、原田氏が挙げられます。文永 11 年（1274 年）の文永の役では、原田種照・種之兄弟が軍勢を率いて奮戦しましたが、種照は箱崎付近で戦死しました。さらに、弘安 4 年（1281 年）の弘安の役では、原田種之・種房親子が今津での防衛戦に活躍し、その武功により種房は大宰大監に任じられています。



なかがわ 福岡県那珂川市



【まちの紹介】



▲市の中心を南北に流れる那珂川

福岡県中西部に位置する那珂川市は、市の中心を那珂川が流れ、その清流が育んだ自然と、福岡都心部へのアクセスの良さを求めて多くの人が集まり、2018（平成30）年10月1日、単独で市になりました。また、国史跡安德台遺跡や国史跡安德大塚古墳、疎水百選にも選ばれた裂田溝など、歴史の豊かな地として知られています。

【所縁の鎌倉武士】

しょうに かげすけ
少式 景資

少式景資は、武蔵国の御家人武藤（少式）資頼の孫で、父に資能、兄に経資がいます。『蒙古襲来絵詞』には、文永の役（1274）で、「日の大將」として五百余騎を率い、博多息の浜に陣を構えている様子が描かれています。そして、弘安8年（1285）に鎌倉で起こった霜月騒動は九州まで波及し、景資が岩門で挙兵、敗死したとされており（岩門合戦）、那珂川市にある岩門城跡（龍神山城跡）が、その場所であったと考えられています。





ちくじょう 福岡県築上町



【まちの紹介】



▲国指定名勝 旧藏内邸

築上町は福岡県の東部、周防灘沿岸に位置し、北は行橋市、西はみやこ町、東は豊前市、南は大分県に接しています。南はほとんど山林で占められており、そこを源とする多くの河川が北部の平野を潤し、周防灘に注いでいます。航空自衛隊築城基地がある町として知られ、古くは学問の神様である菅原道真公が最初に九州へたどりついた地でもあります。また連なる山々の景勝は戦国時代に宇都宮氏が本領としたなど、

自然と歴史、独自の文化が融合し脈々と受け継がれてきました。また、国指定重要無形民俗文化財「豊前神楽」34団体のうち、7団体が築上町に所在し、伝統ある神楽を堪能することができます。

【所縁の鎌倉武士】

うつのみや みちふさ

宇都宮 通房

豊前宇都宮氏の四代目。元寇での活躍を機に北条得宗家との結びつきを強め、執権北条貞時が守護を務める肥後国守護代や筑後国守護を務めたほか、鎮西談義所の頭人にも任命されています。初代、信房は豊前国府に近い木井馬場(みやこ町)を拠点としましたが、五代、頼房の時代に菩提寺、天徳寺(築上町本庄)を創建し城井谷(築上町)に拠点を移しました。通房の元寇での活躍が豊前宇都宮氏400年の繁栄の基礎を築いたのです。



さが 佐賀県佐賀市



【まちの紹介】



▲三重津海軍所跡全景

佐賀市は、脊振山系の山ろく部の山林や清流、広大な佐賀平野に広がるクリークや田園風景、豊饒の海といわれる「有明海」など素晴らしい環境に恵まれています。特に観光面においては、山間部にある観光りんご園、「ぬる湯」で知られる古湯・熊の川温泉、沿岸部における干潟の個性的な動植物など、多様な魅力を備えています。また平成27年5月には、渡り鳥のシギ・チドリ類飛来数日本一を誇り、

紅葉する塩生生物「シチメンソウ」が自生する「東よか干潟」が、ラムサール条約湿地に登録され、同年7月には、洋式船を修理するための日本最古のドライドックを持ち、日本初の実用蒸気船「凌風丸」が造られた「三重津海軍所跡」が、「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の構成資産のひとつとして、世界文化遺産に登録されています。

【所縁の鎌倉武士】

りゅうぞうじ すえとき
龍造寺 季時

りゅうぞうじ いえきよ
龍造寺 家清

たかぎ いえむね
高木 家宗

こくぶ すえたか
国分 季高

おほ たねむね
於保 種宗

高木一族で肥前国御家人の南次郎^{みなみじろう}季家^{すえいえ}は、龍造寺村地頭職を補任したことから龍造寺姓を名乗りました。子の龍造寺季益^{すえます}は、石築地(元寇防塁)の築造を担当しました。また龍造寺一門が異国警固番役(博多湾等の沿岸警備)を勤めた古文書が残っています。弘安の役では季益の嫡男季時、次男家益、三男家清らが博多へ参陣し、季時、家清は壱岐の瀬戸浦の戦いにも参加しています。※人名の呼び方は諸説あります。石築地の普請については高木家宗・国分季高・於保種宗らの名前が見られます。



い ま り 佐賀県伊万里市



【まちの紹介】



▲飯盛城跡遠景(伊万里市山代町)

伊万里市は佐賀県の最西部に位置し、市の西側には伊万里湾が大きく入り込んでいます。伊万里湾の海岸線は、リアス式で複雑な形状を成しており、平地が乏しい地勢です。こうした海岸線にできた大小さまざまな浦々に、中世以降、松浦党が割拠していました。伊万里市内のうち山代・東山代町には、松浦党山代氏に関連する文化財があります。山代氏代々の居城である「飯盛城」には山頂を中心

に曲輪、土塁、竪堀、石垣が良好に残存しています。松浦党に関連する宗教施設と考えられる「山ノ寺」には、松浦党の祖「源久(ひさし)」の遥拝墓や、その子直(なおす)夫妻の墓のほか、広大な敷地内には数多くの石造物が散在しています。このような松浦党の足跡を辿ることができる文化財が、伊万里市内には数多く残されています。

【所縁の鎌倉武士】

やましろ かのう
山代 諧

文永の役において惣領の^{さし}佐志^{ふさし}房らとともに対馬で戦死しています。山代氏の代々の居城は飯盛城(伊万里市山代町久原)です。

やましろ さかえ
山代 栄

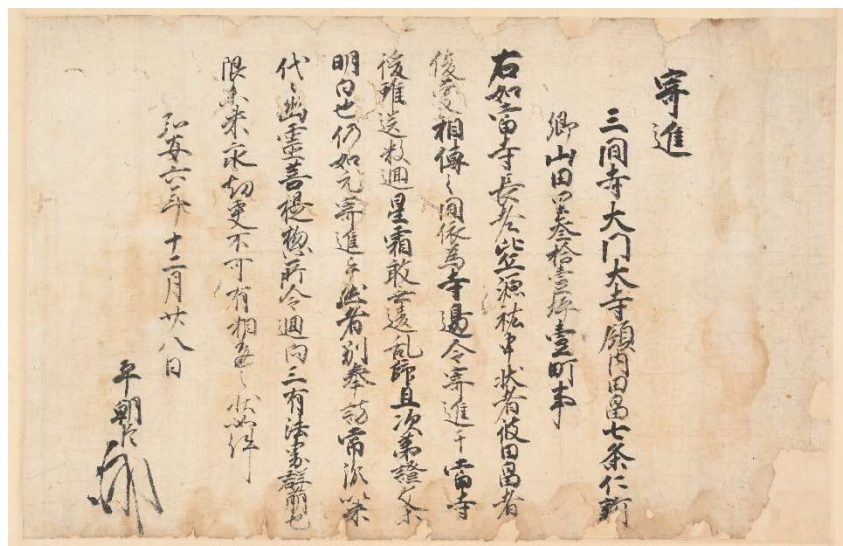
山代 諧の子。弘安の役において壱岐で奮戦し功を上げました。父の文永の役の功で肥前国恵利村(現在の小城市江里環濠付近)の地頭職となりました。



おぎ 佐賀県小城市



【まちの紹介】



▲小城市重要文化財 円通寺文書(千葉宗胤カ寺領寄進状)

小城市は、佐賀県のほぼ中央にあり、佐賀平野の西端、県庁所在地・佐賀市に隣接している地域です。北部に天山山系がそびえ、中央部は肥沃な佐賀平野が開けています。南部には農業用排水路のクリーク地帯が縦横に広がり、日本一の干潟である有明海に面しています。また、市内各所には中世千葉氏や江戸時代の小城鍋

島藩にゆかりの史跡など歴史的・文化的遺産が数多く残っています。観光面では、春に牛尾の梅林や小城公園の桜、芦刈海岸のムツゴロウ、初夏には祇園川のホタル、秋には江里山の棚田を彩る彼岸花、冬には雪のバールをまとった天山など、四季折々の豊かな景観を見せてくれます。

【所縁の鎌倉武士】

ち ば よりたね
千葉 頼胤

^{しもうさ}下総国御家人千葉頼胤が文永の役に参戦しました。頼胤は、その時の負傷により翌、建治元年 8 月 15 日小城において死去したと系図に見えます(「諸家系図」) 頼胤の子、宗胤はその後小城に下向し、円通寺の整備などに関わりました。子孫は、肥前千葉氏として戦国時代前期まで佐賀平野に勢力を持っていました。円通寺には、弘安 6 年千葉宗胤による寺領寄進状が伝わっています。



ありた 佐賀県有田町



【まちの紹介】



佐賀県の西部に位置し、町の南西部から南部にかけて長崎県との県境に接しています。町土の約7割を森林や山岳で占め、伊万里湾へとつながる有田川を挟む地形が特徴的です。日本の伝統工芸品の1つ、有田焼の産地として知られています。17世紀初頭、朝鮮人陶工・李参平らによって泉山で陶石が発見され、日本で初

▲有田内山地区のまちなみ

めて磁器が焼かれました。以来、佐賀藩のもとで、磁器生産が本格化し、谷あいには「有田千軒」と呼ばれる町並みが形成され、繁栄を極めました。この町並みは、現在も歴史的価値の高い建物が数多く残っており、1991年に国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されています。

【所縁の鎌倉武士】

ありた きわむ
有田 究

有田氏は、平安末期頃から有田郷を治めていた松浦党の一族です。初代の有田さかえ栄が築いたとされる唐船城は、背後の唐船山を自然の要塞とし、ふもとに周囲に堀を巡らした居館が建てられていたと考えられています。栄の子、有田 三郎究は、松浦党の諸氏とともに文永の役で奮戦しました。



しろいし 佐賀県白石町



【まちの紹介】



▲歌垣公園のつつじ

佐賀県の南西部に位置する白石町は、平成17年1月1日に旧白石町、旧福富町、旧有明町が合併して誕生し、今年で20周年を迎えます。本町西方の杵島山系から広がる白石平野は、弥生時代から自然陸化し、中世以降に行われた干拓事業で造成され現在は県有数の農業地帯として発展しました。豊かな自然環境に恵まれた土地で、玉ねぎ・れんこん・いちご・海苔が名産となっています。

【所縁の鎌倉武士】

しろいし みちやす
白石 通泰

白石六郎通泰は、現在の白石地域一帯を治めていた鎌倉幕府の御家人で、文永の役(1274年)の博多方面の戦闘で、肥後国の御家人竹崎季長^{すえなが}を救援しました。国宝『蒙古襲来絵詞』には、通泰と他数十騎が描かれ、通泰が大勢で駆けつけ元軍を退け竹崎季長を救援した様子が記されています。また、絵詞には、白石氏の家紋である鶴亀松竹が描かれた旗が確認できます。



蒙古襲来絵詞(版本)をトリミング・拡大・洋装
(出典: 九条コレクション) <https://hdl.handle.net/2324/411726>



くまもと 熊本県熊本市



【まちの紹介】



▲水前寺成趣園

熊本市は九州の中央部に位置し、人口は約74万人、九州では福岡市・北九州市に次ぐ3番目に大きな都市で、2012年には政令指定都市に指定されています。九州でも有数の都会性を持った都市でありながら、古くから「水の都」「森の都」と言われるほど、自然に恵まれ豊富な水資源をもち、市民の生活水道水をすべて清らかな地下水で賄っている世界的に見ても珍しい都市です。農業が大変さかんな地域

でもあり、豊富な水資源と温暖な気候でなす・すいか・みかんなどの全国的な生産地となっています。

【所縁の鎌倉武士】

たくま ときひで
詫磨 時秀

通称は、別当 次郎。時秀は、詫磨^{よしひで}能秀(大友能直の次男。詫磨家の祖。)の嫡男。弘安の役の武功によって筑前志登社地頭職をあたえられました。

たくま よりひで
詫磨 頼秀

詫磨時秀の嫡男。100 騎を率い、菊池武房とともに赤坂で奮戦しました。のちに詫磨宗家を継ぎました。



たまな 熊本県玉名市



【まちの紹介】



▲国指定史跡「熊本藩高瀬米蔵跡」のうち高瀬船着場跡

熊本県北部に位置する玉名市は、市の中心部を一級河川「菊池川」が流れ、古くから河川交通を利用した水運で栄えた地域です。米どころとして発展し、江戸時代には年貢米を集積する拠点となりました。現在はイチゴ、トマトの全国トップクラスの生産地となっています。

【所縁の鎌倉武士】

とうげん た すけみつ

藤源太 資光

竹崎季長の郎党として季長とともに文永の役に参戦、蒙古襲来絵詞に記述があります。また竹崎季長も当市天水町出身との説があります。

おおの くにたか

大野 国隆

大野別府(現 玉名市西部)の惣領として弘安の役に参戦。蒙古襲来絵詞に「弘安の役 of 暴風雨で元軍が壊滅した後の鷹島付近での掃討戦で兵船をまわした」との記述があります。

- ・大野岩崎太郎と大野田島十郎幸隆については「蒙古合戦勲功賞配分状」(深江文書)が残っており、肥前神埼荘に恩賞地を得ていることが分かります。
- ・「肥前東妙・妙法両寺々領坪付注文写」(東妙寺文書)に、築地諸太郎隆能、大野二塚出羽房跡道意の名があり、肥前神埼荘に恩賞地を与えられたことが分かります。
- ・「九州探題一色道猷書下」(深江文書)に、伊倉次郎も神埼荘内に田地を有していることが書かれており、このことから同地に恩賞地を得ていたことが分かります。



かみあまくさ 熊本県上天草市



【まちの紹介】



▲松島(日本三大松島)

上天草市は、熊本県の西部、有明海と八代海が接する天草地域の玄関口に位置し、天草地域に浮かぶ大矢野島、上島、そのほかの島々から構成されています。また、市のほぼ全体が雲仙天草国立公園に含まれ、日本三大松島の一つにあげられる松島など景勝地として四季折々に美しい表情を見せています。年間を通して比較的温暖な気候を有しているところから、果樹や花きの栽培が盛んに行われています。全体的に

平坦地が少ない地勢の中にあって、大矢野島は比較的傾斜が緩やかな丘陵地が多く、花き栽培や酪農が行われています。

【所縁の鎌倉武士】

おおやの たねやす
大矢野 種保

おおやの たねむら
大矢野 種村

大矢野氏は、原田種直に連なる一族です。大矢野 十郎 種保と弟の三郎種村は、元寇に際し、九州へ襲来した元軍と戦いました。『蒙古襲来絵詞』では、草野経永・秋月種宗らの兵船と共に、海を進む大矢野兄弟の兵船が描かれており、大矢野家には種秋という弟も戦ったことも伝わっています。大矢野氏にまつわる大矢野城址や五輪塔は上天草市指定文化財となっています。



「蒙古襲来絵詞(模本)」九州大学附属図書館蔵



う き 熊本県宇城市



【まちの紹介】



▲三角西港と不知火(デコポン)

宇城市は、熊本県のほぼ中央に位置し、古来より交通の要所として栄え、現在も南北の国道3号線、西は天草、東は宮崎県への結束地点となっており、海と山の豊富な自然に囲まれながらも、住環境が整備され、住みやすさを実感できる市になっています。温暖な気候を生かし、果物など多くの農産物が生産されており、特にデコポン(品種名:不知火)は、発祥の地として有名です。

市の西端には、世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の構成資産である三角西港があり、明治期の港が完全な形で残っています。

【所縁の鎌倉武士】

たけざき すえなが
竹崎 季長

元寇において、先駆けの功績を果たし、その恩賞を得るまでの様子を生き活きと絵巻物「蒙古襲来絵詞」に残しました。この絵巻物は元寇の様子を現代に伝える唯一の絵画資料として国宝に指定されています。

季長は、元寇の恩賞として現在の宇城市小川町海東(かいとう)地区にあたる海東郷の地頭に任じられ、海東地区には、季長の建立した塔福寺、海東阿蘇神社に加え、墓と伝わる五輪塔などが残されています。



▲竹崎季長の墓(宇城市指定文化財)



なごみ 熊本県和水町



【まちの紹介】



▲国史跡「江田船山古墳」 石人の巨大モニュメント

和水町は熊本県北西部の福岡県との県境に位置しており、平成18年に旧菊水町と旧三加和町が合併して誕生しました。江田船山古墳・田中城跡・豊前街道腹切坂などの文化財や、菊池川が育む自然に恵まれています。2019年に放送されたNHK大河ドラマ「いだてん～東京オリムピック噺」の主人公の一人、金栗四三氏の生誕の地でもあり、毎年11月には四三氏の偉業を称える「金栗四三翁マラソン大会」が開催されます。

【所縁の鎌倉武士】

え た ひでいえ
江田秀家

江田^{またたろうひでいえ}又太郎秀家は、文永の役で竹崎季長と互いに戦功をみつぐために兜を交換したとされます。和水町江田に所在する江田城跡を居城としていました。

や い ご め ご ろ う
焼米五郎

「蒙古襲来絵詞」によると、^{や い ご め ご ろ う}焼米五郎は、弘安の役で竹崎季長と兵船を共にしています。和水町焼米に所在する焼米城跡の城主であるとの伝承があります。



くにとみ 宮崎県国富町



【まちの紹介】



▲大坪の一本桜

宮崎県の中央部に位置する人口約18,000人の町。まち並みに溶け込むように点在する本庄古墳群(国指定史跡)など貴重な文化財が多くあり、美しい自然の中に歴史と文化が息づく人情豊かな町です。一年を通して温暖な気候が特徴で、南国宮崎の太陽に育てられたマンゴー、せんぎり大根(切り干し大根)、ピーマン、富有柿(ふゆうがき)、米などの農産物に加え、宮崎牛や鶏の炭火焼きなど食材の宝庫です。

【所縁の鎌倉武士】

いとう すけより
伊東 祐頼

ひゆうがこく 日向国伊東家3代当主。伊東^{すけみつ}祐光の代官として兵を率いて筑前(福岡)に出征。日向国^{きわき}木脇を領したことから木脇祐頼ともいわれます。祐頼は文永の役に出陣して活躍しました。



つしま 長崎県対馬市



【まちの紹介】



▲複雑に入り組んだ浅茅湾

九州と朝鮮半島の間位置する対馬は、山林が島全体の約90%を占める自然豊かな島です。中央部の浅茅湾は、大小幾つもの入江と島々が複雑に入り組んだリアス海岸で形成され、壱岐対馬国定公園に指定されています。また、島の西沖で獲れるアナゴは肉厚な身と脂がのったことで知られ、観光客はもとより、全国で需用が高まっています。対馬は、先史古代から東アジアと日本列島を結ぶ結節点としての役割を果たしてきました。特別史跡金田城跡をはじめと

した史跡や書物、仏像などの文化財が数多く残っています。近年では、販売本数900万本以上の大ヒット商品ゴーストオブツシマの影響により、ゲームファンも多く訪れています。また、元寇を題材にした『アンゴルモア元寇合戦記』(対馬編 第1～10巻)では、対馬の奮闘が描かれています。

【所縁の鎌倉武士】

そうすけくに
宗資国

そうもりあきら
宗盛 明

つしまこたろう
対馬小太郎

ひょうえじろう
兵衛次郎

文永11年(1274)10月3日、対馬地頭代 宗資国(江戸時代以降は助国とも)は、元・高麗軍が来襲した佐須浦に80余騎で駆け付けましたが、約一千人の元・高麗軍と戦い、資国をはじめ一族の宗右馬次郎、阿比留弥次郎ほか従軍した一族郎党は全滅しました。戦死者のうち30名は『宗氏家譜』に記載されています。資国公の御首塚、御胴塚は別々の場所にあり、壮絶な戦いであったことを物語っています。後年、資国公の義勇に感謝し祠を佐須浦(小茂田浜)に建て、明治7年(1874)に小茂田浜神社と改号して以降も多くの参拝者が訪れています。



▲小茂田浜神社の大祭(11/10)



い き 長崎県壱岐市



【まちの紹介】



▲少弐資時像

壱岐市は、九州本土の福岡市から北西に約80km、佐賀県北端部の東松浦半島から北北西に約20kmの玄界灘上に位置しています。面積は133.82km²、南北17km、東西15km。有人島としては壱岐島の南西部の沖合いに原島と長島、大島が、北側の沖合いに若宮島の合計4島があります。また島周辺には19ヶ所の無人島があり、これらをまとめて壱岐(壱岐諸島)と呼び、市域全域が壱岐対馬国定公園に指定されています。対馬海流の影響を

受けており、比較的温暖で過ごしやすのが特徴で、畜産業や農業にも適しています。県1位の生産量を誇るアスパラガス、濃厚な甘みと香り、ジューシーな果肉が自慢の「壱岐アムスメロン」やいちご、こしひかりなどの生産も盛んです。

【所縁の鎌倉武士】

たいらの
平 景隆

壱岐守護代 平 景隆。文永の役の際に、兵100騎とともに応戦しました。しかし、圧倒的兵力差の前に敗れ、壱岐の樋詰城で自害しています。

しょうに すけとき
少弐 資時

壱岐守護代 少弐 資時。少弐^{つねすけ}経資の子で、文永の役の際に12歳で初陣をかざりました。弘安の役の際には、壱岐守護代として奮戦しましたが、19歳の若さで戦死しています。



ひらど 長崎県平戸市



【まちの紹介】



▲平戸港と平戸の町並み

平戸市は、九州本土の西北端、平戸瀬戸を隔てて南北に細長く横たわっている平戸島と、生月島、大島、度島、高島の有人島及び九州本土北部の沿岸部に位置する田平町と周辺の多数の島々で構成されています。今から400年ほど前、日本で最初の西洋貿易港として、イギリスやオランダとの交流が始まりました。西洋文化の橋渡しとなった平戸。街のいたるところに、歴史を物語る建物

や史跡、島々に残された先人たちが積み重ねたロマンがあふれる島です。

【所縁の鎌倉武士】

まつうら ことふ
松浦 答

平戸松浦家十四代当主 松浦 答。※こたうの記もあります。
文永の役では博多で、弘安の役では志賀島の戦い等に参戦しています。小舟に乗って夜間の奇襲を敢行するなど海戦に長じて勇名を馳せました。



しんかみごとう 長崎県新上五島町



【まちの紹介】



▲新上五島町の家（蛤浜海水浴場）

新上五島町は、九州の西端の長崎県五島列島の北部に位置し、中通島と若松島を中心とする7つの有人島と60の無人島から構成されています。海と山の美しく豊かな自然にあふれており、その面積の相当部分が西海国立公園に指定されています。日本有数の好漁場として水産資源に非常に恵まれており、定置網のほか、まき網や船びき網、一本釣等の漁船漁業と、養殖業が営まれています。

す。また、遣唐使が伝えたとも言われる五島手延うどんは日本三大うどんの一つにも挙げられており、麺の乾燥を防ぐために五島列島地域にゆかりの深い椿油を表面に塗られた麺はコシの強さや喉ごしの良さに特徴があります。

【所縁の鎌倉武士】

あおかた いえたか
青方 家高

弘安の役に際し、子の能高^{よしたか}とともに郎党を従え奮戦しました。勲功として肥前神崎庄、筑後国三潆^{みずま}庄是友名の田畑及び地頭職を賜っています。また、青方文書は、鎌倉幕府の訴訟制度や地方武士団の存在形態、南北朝期から室町期にかけての国・人・一揆の実態を知る史料として、また中世の漁業関係史料等として、質・量ともに県内に類例のない中世文書群で令和6年3月に国指定重要文化財(美術工芸)になりました。その他、青方家高と深い関わりのある青方神社は、今なお地域の人々から手厚く祀られており、ぜひ訪れていただきたいスポットです。



▲青方神社
(日本遺産「国境の島 壱岐・対馬・五島」の構成文化財のひとつ)



たけお 佐賀県武雄市



【まちの紹介】



▲武雄温泉楼門

武雄市は、佐賀県の西部に位置する温泉と自然が豊かなまちです。1300年の歴史を持ち、「美人の湯」とも呼ばれる武雄温泉、御船山、黒髪山などの雄大な自然と、やきもの、蘭学、伝統芸能など歴史・文化が息づいています。また、全国から注目を集めている図書館や令和4年9月、西九州新幹線の開通により、交通の要衝としても発展しています。

【所縁の鎌倉武士】

ふじわらすけかど
藤原資門

武雄神社文書(佐賀県最古の古文書。国指定重要文化財)にある黒尾社大宮司藤原資門申状に、御厨合戦において千崎で敵船に乗り移り、負傷しながらも敵兵一人を生け捕り、さらに一人の首を分捕るなど活躍したことが記されています。

ふなはらさぶろうすけみつ
船原三郎祐光

甲斐国の波木井実長の三男。壱岐及び鷹島で戦い元軍に勝利しました。功績として武雄の一部(武雄市山内町船ノ原地区)を領地として受け、松浦市(今福と志佐の一部)にも飛地を受けています。



▲武雄神社



まつうら 長崎県松浦市



【まちの紹介】



▲アジフライのモニュメント

長崎県北部の北松浦半島に位置する松浦市は、アジの水揚げ量が日本トップクラスを誇り市内の多くの飲食店で絶品のアジフライを味わえます。2019年4月には「アジフライの聖地 松浦」を宣言。また、松浦党発祥の地としても知られ、鎌倉時代に起きた元寇の戦場跡や沈没船などの貴重な海底遺産が眠る場所としても注目を集めています。

【所縁の鎌倉武士】

し さ つづく
志佐 継

志佐 ^{さぶろうひょうえ}三郎兵衛 ^{いわう}継。子の祝とともに参戦し、活躍しました。弘安の役の恩賞配分がなかったことから、継は、有田 ^{ふかし}深、山代 ^{さかえ}栄とともに一族を代表して幕府に参向しました。志佐氏の居城は、志佐氏初代 ^{さだむ}貞の時に築城された直谷城(佐世保市吉井町)。直谷城築城後も志佐氏は、一時、壱岐を領有していたことから海に近い陣ノ内城(松浦市志佐町)を出城として活用していました。陣ノ内城跡にある寿昌寺は、志佐氏の菩提寺と伝わっています。



▲陣ノ内城跡(寿昌寺)